

2026年度 文学部聴講生
講義要項
(フランス語文学文化専攻抜粋)

中央大学 文学部

2026.4 - 2027.3

科目名： フランス文化史A

担当教員： 学谷 亮

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 月5

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-FS1-D203

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:53:5

更新者： AA2436

更新日時： 2026-01-04 22:09:5

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、フランス語圏の自然環境・風土や、各時代の政治体制との関わりからフランス文化を捉えることで、フランス文化の多様な側面を理解することをめざします。各時代の文化を支えている時代精神や、地理・歴史・宗教・言語などに関する知識を獲得することを通して、フランス文化を理解するための思考の枠組みを作っていきます。それによって、今後のフランス文学やフランス美術の学習において、受講者が文学作品や美術作品を能動的に読み解くための基礎を身につけることを目指します。

前期の「フランス文化史A」では、フランス語圏の地理について概観した後、中世から18世紀までの話題を中心に取り上げます。政治史の理解なくして文化史の理解はおぼつきません。そこで、まずはフランス史の基礎的な流れを学び、各時代の主な文化史上の出来事を政治社会との関わりから考察していきます。さらに、フランス文化を学ぶ上で特に重要ないくつかのトピックを取り上げ、時代による変化・発展を中心に解説し、通史的知識の肉付けを図ります。

科目目的

フランス文化の本質的理解のために必要な、フランス語圏の地理と歴史に関する基礎的な知識を習得する。
フランス文化を支えてきた様々な制度について、その特徴と歴史的な変遷・発展に関する基礎的な知識を習得する。
フランス文化のもつ多様性や、フランス文化と異文化との交流・交渉について、具体的な事例からその特徴を考察できるようにする。

到達目標

フランス語圏の気候風土について説明でき、主要な河川や山脈、都市、重要な歴史的モニュメントの名称と位置を挙げることができる。
フランス史の基本的な流れを把握し、各時代における政治史上の出来事とフランス文化との関わりを説明することができる。
フランス文化を支えてきた諸制度の特徴を説明し、それらと関連する具体的な文学・芸術作品を挙げることができる。
フランス語圏と他地域の交流・交渉の基本的な歴史を把握し、異文化との接触により生じたフランス文化の変容について具体的な例を挙げながら説明することができる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス——フランスってどんな国？
- 第2回 首都パリとその周辺
- 第3回 多種多様な地方
- 第4回 旧植民地と海外領土
- 第5回 フランスの生成
- 第6回 キリスト教文化
- 第7回 ルネサンスと宗教戦争
- 第8回 絶対王政の確立
- 第9回 啓蒙の世紀
- 第10回 ラテン語からフランス語へ
- 第11回 大学の誕生
- 第12回 音楽と宗教
- 第13回 サロンとアカデミー
- 第14回 到達度確認・総まとめ

※受講生の理解度・関心に応じて、全体の科目目的・到達目標に影響しない範囲で一部内容を変更することもあります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	60% 授業内容の理解度を問う問題(語句説明問題や論述問題)を出題します。
レポート	0%
平常点	40% 各回の授業冒頭で提示する「今日の問い」について、授業を聞いたうえでどのように考えるか、コメントを提出してもらいます。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

毎回の授業冒頭で「今日の問い」を提示します。それについて、まず受講者各自で数分間考えた後、ペアもしくはグループで意見交換をします(「シンク・ペア・シェア」と呼ばれる手法です)。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

<テキスト> 使用しません。授業内で使用する資料はmanabaで配布します。
<参考文献> リーディングリストを配布します。授業中に随時紹介していきます。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

この授業は、仏文専攻・語文コース系の教員が担当しています。

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>

語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

この科目は教職(フランス語)の必修科目です。※2020年度入学生まで対象

科目名： フランス文化史B**担当教員： 学谷 亮**

履修年度： 2026 学期： 後期

開講曜日時限： 月5

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-FS1-D204

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:53:5

更新者： AA2436

更新日時： 2026-01-04 22:10:4

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、フランス語圏の自然環境・風土や、各時代の政治体制との関わりからフランス文化を捉えることで、フランス文化の多様な側面を理解することをめざします。各時代の文化を支えている時代精神や、地理・歴史・宗教・言語などに関する知識を獲得することを通して、フランス文化を理解するための思考の枠組みを作っていきます。それによって、今後のフランス文学やフランス美術の学習において、受講者が文学作品や美術作品を能動的に読み解くための基礎を身につけることを目指します。

後期の「フランス文化史B」では、19世紀から現代までの話題を中心に取り上げます。政治史の理解なくして文化史の理解はおぼつきません。そこで、まずはフランス史の基礎的な流れを学び、各時代の主な文化史上の出来事を政治社会との関わりから考察していきます。さらに、フランス文化を学ぶ上で特に重要ないくつかのトピックを取り上げ、時代による変化・発展を中心に解説し、通史的知識の肉付けを図ります。

科目目的

フランス文化の本質的理解のために必要な、フランス語圏の地理と歴史に関する基礎的な知識を習得する。
フランス文化を支えてきた様々な制度について、その特徴と歴史的な変遷・発展に関する基礎的な知識を習得する。
フランス文化のもつ多様性や、フランス文化と異文化との交流・交渉について、具体的な事例からその特徴を考察できるようにする。

到達目標

フランス史の基本的な流れを把握し、各時代における政治史上の出来事とフランス文化との関わりを説明することができる。
フランス文化を支えてきた諸制度の特徴を説明し、それらと関連する具体的な文学・芸術作品を挙げることができる。
フランス語圏と他地域の交流・交渉の基本的な歴史を把握し、異文化との接触により生じたフランス文化の変容について具体的な例を挙げながら説明することができる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス——「近代」って何？
- 第2回 アンシャン・レジームの崩壊
- 第3回 ナポレオン時代と第二帝政
- 第4回 第三共和政とベル・エポック
- 第5回 二度の世界大戦
- 第6回 戦後フランス社会
- 第7回 美食の国フランス
- 第8回 余暇の誕生とツーリズム
- 第9回 近代都市パリの誕生
- 第10回 万博という文化装置
- 第11回 知識人の時代
- 第12回 ライシテという問題
- 第13回 移民とフランス社会
- 第14回 到達度確認・総まとめ

※受講生の理解度・関心に応じて、全体の科目目的・到達目標に影響しない範囲で一部内容を変更することもあります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	授業内容の理解度を問う問題(語句説明問題や論述問題)を出題します。
レポート	0%	
平常点	40%	各回の授業冒頭で提示する「今日の問い」について、授業を聞いたうえでどのように考えるか、コメントを提出してもらいます。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

毎回の授業冒頭で「今日の問い」を提示します。それについて、まず受講者各自で数分間考えた後、ペアもしくはグループで意見交換をします(「シンク・ペア・シェア」と呼ばれる手法です)。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

<テキスト> 使用しません。授業内で使用する資料はmanabaで配布します。
<参考文献> リーディングリストを配布します。授業中に随時紹介していきます。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

この授業は、仏文専攻・語文コース系の教員が担当しています。

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>

語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

この科目は教職(フランス語)の必修科目です。※2020年度入学生まで対象

科目名： フランス言語思想A

担当教員： 金澤 忠信

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 水4

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-FS2-D301

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:53:5

更新者： AA2116

更新日時： 2026-01-10 23:42:5

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等

科目名に「フランス」「言語」「思想」が含まれていることから分かるように、この講義では、①フランスおよびフランス語についてのある程度の知識が必要です。②言語学および哲学・思想についてもある程度の予備知識があることが望ましいですが、必須ではありません。ただし最低限、興味・関心は必要です。哲学的な問題にあまり馴染みのない、あるいはまったく関心のない人にとっては、抽象的すぎると感じるかもしれません。その点を考慮に入れて履修するようにしてください。時間割でその枠が空いているから、単位数をそろえるためだけ、といった消極的な理由しかないようでしたら、別の科目の履修をお勧めします。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

「フランス言語思想」は、「フランス」という固有名詞と、「言語」「思想」という2つの普通名詞から成り立っています。これは、「フランスにおける、言語にもつづいた思想」と解することができます。第二次世界大戦後、フランスでは、言語学をパイロット・サイエンスとして、人文・社会諸科学に一大変革をもたらす思想的潮流が現れました。この思想は「構造主義」と呼ばれ、20世紀後半の約半世紀の間、フランスのみならず、日本を含め世界の知的状況に大きな影響を与えました。前期「フランス言語思想A」では、前半(第1回～第6回)で19世紀まで、後半(第7回～第13回)で20世紀以降のフランス語圏の言語学者・思想家を取りあげ、その理論・方法論について、具体的にいくつかのテキストを読みながら学んでいきます。

科目目的

この科目は、フランス発の構造主義が、哲学、言語学、社会学、歴史学、人類学、精神分析、経済学などの人文・社会諸科学を、どのような歴史的文脈のなかで、どのように変革し、領域横断的な現在の知のあり方の礎となったかを知ることを目的とします。

到達目標

まず、構造主義の理論モデルとなった言語学あるいは記号学を理解する。そのうえで、構造主義に関連する哲学、人類学、精神分析、社会学などの研究書を読み、その方法論を身につけて、自分の専門分野の研究に活かすことができるようになる。

授業計画と内容

- 授業計画と内容
- 第01回 インTRODクシヨン
 - 第02回 言語・思想・歴史
 - 第03回 言語と理性
 - 第04回 言語と認識
 - 第05回 言語の起源
 - 第06回 言語と国民
 - 第07回 歴史から体系へ
 - 第08回 一般言語学
 - 第09回 言語記号の性質
 - 第10回 音韻論
 - 第11回 構造人類学
 - 第12回 言語と無意識
 - 第13回 記号学
 - 第14回 まとめ(到達度確認)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

シラバスや授業で紹介された参考文献を読んで、予習復習すること。授業で配布された資料を復習し、さらにその出典や関連文献にあたって理解を発展させること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	100点満点で、60点以上が合格の目安。
レポート	0%	
平常点	40%	毎回授業時に出される課題にそってミニレポートを執筆しmanabaに提出。授業についての感想や質問を書いてもよい。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

- ①到達度確認テスト[問1]穴埋め問題(40点)、[問2]語句・用語の説明(30点)、[問3]論述問題(30点)。論述問題では、各回に提出したミニレポートのいずれかを推敲するかたちで800字程度のレポートを書きます。
- ②原則的に、授業数の3分の2以上の出席およびミニレポートの提出が必要です。毎回授業開始時にresponで出席確認をするので、必ずスマホやノートPCなど端末をもってきてください。ミニレポートは、その質・量が評価の対象となります。授業の内容を踏まえたうえで、指定された課題にきちんと答えているかどうか、論理的で分かりやすい文章であるかどうかが問われます。課題によっては、次の授業で、意見・感想の紹介、質問への回答をすることもあります。試験が苦手な人あるいは上位の成績を目指す人は、毎回のミニレポートをしっかりと書くようにしてください。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
 - ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaの活用

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- 資料は毎回配布する。

■参考文献:

- ★ロイ・ハリス/タルボット・J・テイラー、『言語論のランドマーク』、斎藤伸治/滝沢直宏訳、大修館書店、1997年。
- ★フェルディナン・ド・ソシュール、『新訳ソシュール一般言語学講義』、町田健訳、研究社、2016年。
- ★ロマン・ヤコブソン、『音と意味についての六章』(クロード・レヴィ=ストロース序)、花輪光訳、みすず書房、1977年。
- ★クロード・レヴィ=ストロース、『構造人類学』、荒川幾男他訳、みすず書房、1972年。

- ★ロラン・バルト、『記号学の冒険』、花輪光訳、みすず書房、1988年。
- ★内田樹、『寝ながら学べる構造主義』、文春新書、2002年。

※その他の参考文献については授業で適宜指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

メールアドレス: tkanazawa116@g.chuo-u.ac.jp

参考URL

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>
語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

科目名： フランス言語思想B

担当教員： 金澤 忠信

履修年度： 2026 学期： 後期

開講曜日時限： 水4

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-FS2-D302

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:53:5

更新者： AA2116

更新日時： 2026-01-10 23:48:1

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等

前期「フランス言語思想A」の続きですが、Aを履修していなくてもBを履修することは可能です。

科目名に「フランス」「言語」「思想」が含まれていることから分かるように、この講義では、①フランスおよびフランス語についてのある程度の知識が必要です。②言語学および哲学・思想についてもある程度の予備知識があることが望ましいですが、必須ではありません。ただし最低限、興味・関心は必要です。哲学的な問題にあまり馴染みのない、あるいはまったく関心のない人にとっては、抽象的すぎると感じるかもしれません。その点を考慮に入れて履修するようにしてください。時間割でその枠が空いているから、単位数をそろえるためだけ、といった消極的な理由しかないようでしたら、別の科目の履修をお勧めします。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

「フランス言語思想」は、「フランス」という固有名詞と、「言語」「思想」という2つの普通名詞から成り立っています。これは、「フランスにおける、言語にもついた思想」と解することができます。第二次世界大戦後、フランスでは、言語学をパイロット・サイエンスとして、人文・社会諸科学に一大変革をもたらす思想的潮流が現れました。この思想は「構造主義」と呼ばれ、20世紀後半の約半世紀の間、フランスのみならず、日本を含め世界の知的状況に大きな影響を与えました。後期「フランス言語思想B」では、構造主義興隆の歴史的背景に目配せしつつ、その理論・方法論について、具体的にいくつかのテキストを読みながら学んでいきます。また、構造主義の今日的意義についても考察します。

科目目的

この科目は、フランス発の構造主義が、哲学、言語学、社会学、歴史学、人類学、精神分析、経済学などの人文・社会諸科学を、どのような歴史的な文脈のなかで、どのように変革し、領域横断的な現在の知のあり方の礎となったかを知ることを目的とします。

到達目標

まず、構造主義の理論モデルとなった言語学あるいは記号学を理解する。そのうえで、構造主義に関連する哲学、人類学、精神分析、社会学などの研究書を読み、その方法論を身につけて、自分の専門分野の研究に活かすことができるようになる。

授業計画と内容

- 第01回 インTRODクシヨン
- 第02回 一般言語学の誕生
- 第03回 音韻論から構造人類学へ
- 第04回 文字の教訓
- 第05回 神話の構造
- 第06回 テキストの無意識
- 第07回 精神分析の基本概念
- 第08回 作者の死
- 第09回 物語の構造分析
- 第10回 第三の意味
- 第11回 言説の領界
- 第12回 言葉と物
- 第13回 監視と可視性
- 第14回 まとめ(到達度確認)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

シラバスや授業で紹介された参考文献を読んで、予習復習すること。授業で配布された資料を復習し、さらにその出典や関連文献にあたって理解を発展させること。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	100点満点で、60点以上が合格の目安。
レポート	0%	
平常点	40%	毎回授業時に出される課題にそってミニレポートを執筆しmanabaに提出。授業についての感想や質問を書いてもよい。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

- ①期末試験[問1]穴埋め問題(40点)、[問2]語句・用語の説明(30点)、[問3]論述問題(30点)。論述問題では、各回に提出したミニレポートのいずれかを推敲するかたちで800字程度のレポートを書きます。
- ②原則的に、授業数の3分の2以上の出席およびミニレポートの提出が必要です。毎回授業開始時にresponで出席確認をするので、必ずスマホやノートPCなど端末をもってきてください。ミニレポートは、その質・量が評価の対象となります。授業の内容を踏まえたうえで、指定された課題にきちんと答えているかどうか、論理的で分かりやすい文章であるかどうかが問われます。課題によっては、次の授業で、意見・感想の紹介、質問への回答をすることもあります。試験が苦手な人あるいは上位の成績を目指す人は、毎回のミニレポートをしっかりと書くようにしてください。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaの活用

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- 資料は毎回配布する。

■参考文献:

- ★フェルディナン・ド・ソシュール、『新訳ソシュール一般言語学講義』、町田健訳、研究社、2016年。
- ★ロマン・ヤコブソン、『音と意味についての六章』(クロード・レヴィ=ストロース序)、花輪光訳、みすず書房、1977年。
- ★クロード・レヴィ=ストロース、『悲しき熱帯I・II』、川田順造訳、中央公論新社、2001年。
- ★クロード・レヴィ=ストロース、『構造人類学』、荒川幾男他訳、みすず書房、1972年。

- ★ロラン・バルト、『物語の構造分析』、花輪光訳、みすず書房、1979年。
- ★ロラン・バルト、『S/Z』、沢崎浩平訳、みすず書房、1973年。
- ★ロラン・バルト、『第三の意味』、沢崎浩平訳、みすず書房、1984年。
- ★ミシェル・フーコー、『言葉と物(新装版)——人文科学の考古学』、渡辺一民／佐々木明訳、新潮社、2020年。
- ★ミシェル・フーコー、『言説の領界』、慎改康之訳、河出書房、2014年。
- ★ミシェル・フーコー、『監獄の誕生(新装版)——監視と処罰』、田村俣訳、新潮社、2020年。
- ★J.=M. ドムナック編、『構造主義とは何か』、伊藤守男・谷亀利一訳、平凡社、2004年。
- ★内田樹、『寝ながら学べる構造主義』、文春新書、2002年。
- ★フランソワ・ドゥス、『構造主義の歴史[上巻]——記号の沃野 1945～1966』、清水正・佐山一訳、国文社、1999年。
- ★フランソワ・ドゥス、『構造主義の歴史[下巻]——白鳥の歌 1967～1992』、中澤紀雄訳、国文社、1999年。

※その他の参考文献については授業で適宜指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

メールアドレス: tkanazawa116@g.chuo-u.ac.jp

参考URL

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>

語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

科目名： フランス小説A**担当教員： 安達 孝信**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：水2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-D303

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:5

更新者：XEA601

更新日時：2025-12-23 10:05:3

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- ✓ フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

前期フランス小説A、後期フランス小説Bでそれぞれ2つの作品を取り上げ、それぞれの作品について、梗概を紹介したうえで、登場人物、その構造、特徴、また文学史上の位置づけについて解説していきます。
前期のフランス小説Aではアベ・プレヴォーの『マノン・レスコー』、ヴォルテールの『カンディッド』を取り上げます。どちらも18世紀のフランス小説で、後代にも大きな影響を与え続けたものです。

科目目的

仏文専攻学生の必読書の中から、著名な小説作品を選び、解説する講義を聴くだけでなく、実際に読むことでフランス小説全体に対する知見を広め、体得することを目的とします。世界にとって文学とは何か、という大きな問題と共に、自分にとっての「文学」の意味を確かめる機会としてください。

到達目標

- 1) 卒業論文や次年度の個別研究、ゼミの選択などの際に、参考となる知見を持つこと。フランス小説を軸として、思想、詩、映画、演劇その他の文化現象を読み解く技術を会得し、自身の意見を的確に表現できるようになること。
- 2) 小説を分析的に読むとはどのようなことかを体得すること。

授業計画と内容

- 1 18世紀小説の概観
- 2 『マノン・レスコー』の梗概
- 3 マノン・レスコーに現れた登場人物群
- 4 ファム・ファタルとしてのマノン
- 5 デ・グリユー騎士の人物像
- 6 『マノン・レスコー』の語り
- 7 『マノン・レスコー』の読者
- 8 ヴォルテールの文学活動の概観
- 9 『カンディッド』の梗概
- 10 『カンディッド』の登場人物群
- 11 カンディッドの人物像
- 12 『カンディッド』の主要副人物
- 13 冒険小説としての『カンディッド』
- 14 前期の振り返り

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

なるべく早く、指定されたテキストを一度だけでなく、数度にわたって読み込んでください。
また配布した原文抜粋もできるだけ自分で辞書を引ながら読み込んでください。
18世紀のフランス小説、またその影響を受けた19世紀の作品を他にも読んでみてください。
例 デイドロ 『運命論者ジャックとその主人』
モンテスキュー 『ペルシャ人の手紙』
ルソー 『新エロイズ』
デュマ・フィス 『椿姫』

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	80% 2本レポートを提出していただきます。うち少なくとも1本は授業で扱ったテキストを取りあげてください。
平常点	20% 授業中の発言、授業への主体的参加
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

2本レポートを提出していただきます。うち少なくとも1本は授業で扱った作品を取りあげてください。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
 - ✓ グループワーク
 - ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

グループを作っていたいただき、それぞれの作品の登場人物の特徴、物語の作り方の特徴、物語の構造などについて議論し、それについてプレゼンしていただきます。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- 【テキスト】プレヴォ『マノン・レスコー』野崎歓訳、光文社古典新訳文庫、2017年、ISBN 978-4334753665
- 【テキスト】ヴォルテール『カンディッド他五編』植田祐次訳、岩波文庫、2005年、ISBN 978-4003251812

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>
語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

科目名: フランス小説B

担当教員: 安達 孝信

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 水2

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LT2-D304

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:5

更新者: XEA601

更新日時: 2025-12-23 10:04:5

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- ✓ フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

前期フランス小説A、後期フランス小説Bでそれぞれ2つの作品を取り上げ、それぞれの作品について、梗概を紹介したうえで、登場人物、その構造、特徴、また文学史上の位置づけについて解説していきます。
後期のフランス小説Bではバルザックの『ゴリオ爺さん』、ジュール・ヴェルヌの『八十日間世界一周』を取り上げます。どちらも19世紀のフランス小説で、前者は傑作として、後者はどちらかというと子供向けの冒険小説として知られていますが、いずれも世紀を代表する作品の一つです。

科目目的

19世紀の長編小説に親しむことを目的とします。解説する講義を聴くだけでなく、実際に読むことでフランス小説全体に対する知見を広め、体得することを目的とします。世界にとって文学とは何か、という大きな問題と共に、自分にとっての「文学」の意味を確かめる機会としてください。

到達目標

- 1) 卒業論文や次年度の個別研究、ゼミの選択などの際に、参考となる知見を持つこと。フランス小説を軸として、思想、詩、映画、演劇その他の文化現象を読み解く技術を会得し、自身の意見を的確に表現できるようになること。
- 2) 小説を分析的に読むとはどのようなことかを体得すること。
- 3) フランス人がフランス人のために書いた文章を読解できるようになること。

授業計画と内容

- 1 19世紀小説の概観
- 2 『ゴリオ爺さん』の梗概
- 3 『ゴリオ爺さん』に現れる登場人物群
- 4 『ゴリオ爺さん』における女性人物
- 5 『ゴリオ爺さん』における男性人物
- 6 『ゴリオ爺さん』におけるパリの社交界
- 7 『ゴリオ爺さん』における恋愛と金銭
- 8 ジュール・ヴェルヌと科学、ジュール・ヴェルヌと文学史
- 9 『八十日間世界一周』の梗概
- 10 『八十日間世界一周』の登場人物群
- 11 『八十日間世界一周』の主人公フィリアス・フォッグの人物像
- 12 執事パスバルトゥーと刑事フィックス
- 13 『八十日間世界一周』の語り
- 14 今期の振り返り

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

指定された二作品の翻訳はなるべく早く、一度ではなく数度読むようにしてください。
また配布された原文についても、自分で辞書をひいて読解を試みてください。
19世紀のフランス小説を他にも読んでみてください。

- 例 スタンダール『赤と黒』
フローベール『感情教育』
ゾラ『居酒屋』
モーパッサン『女の一生』
ジュール・ヴェルヌ『十五少年漂流記』

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	80% 2本レポートを提出していただきます。うち少なくとも1本は授業で扱ったテキストを取りあげてください。
平常点	20% 授業中の発言、授業への主体的参加。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

2本レポートを提出していただきます。うち少なくとも1本は授業で扱ったテキストを取りあげてください。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
 - ✓ グループワーク
 - ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

グループを作ってください、それぞれの作品の登場人物の特徴、物語の作り方の特徴、物語の構造などについて議論し、それについてプレゼンしていただきます。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- 【テキスト】バルザック『ゴリオ爺さん』平岡篤頼訳、新潮文庫、1972年、ISBN 978-4102005057
- 【テキスト】ジュール・ヴェルヌ『八十日間世界一周』田辺貞之助訳、創元SF文庫、1976年、ISBN 978-4488517038

他に必要資料をコピーで配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

■語文コースブログ 毎週、更新中！

<https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

■中央大学 仏文専攻 語文コース:

<https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>

備考

科目名： フランス詩A

担当教員： 前之園 望

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 水2

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-LT2-D305

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:53:5

更新者： AA2035

更新日時： 2026-01-12 11:29:1

授業形式

原則として、すべての授業回について面接授業を行います。

履修条件・関連科目等

フランス語の基礎文法を修得済みであること。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- ✓ フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

外国語に翻訳するのが一番難しい表現はなんだと思いますか？ 哲学用語？ 時事用語？ いいえ、それは「ダジャレ」です。たとえば「布団がふっとんだ」の「くだらなさ」まで100%ニュアンスを伝える英訳は可能でしょうか？ “The futon was blown up.”なんて訳しても全然おもしろみがありませんね。ある言語内での単語間の音の類似を、そっくりそのまま他の言語に置き換えるのはほぼ不可能です。

詩は特に音の響き合いを利用する傾向の強い言語芸術です。詩作品は、翻訳で読んでももちろん楽しめますが、原文で同じ作品を読むと、いかに翻訳でこぼれ落ちてしまうものが多いかということに気が付きます。これは、翻訳者の技量ではどうしようもない、言語の構造的な問題です。

フランス語の基礎文法を学んだ方は、フランス詩を原文で丸ごと味わうことができます。これは大きな特権です。翻訳は大いに利用して構いません。原文で作品を読み、その翻訳を補う視点から作品を楽しみましょう。

フランス詩Aの授業では、毎回の授業時間を3つに分け、テーマ別の授業を行います。まず、フランスにおける詩の歴史(中世～20世紀)を時代ごとに概観して、大まかな流れを把握する時間を取ります。次に、時代区分とは関係なく読みやすい小ぶりの詩作品を読み、分析の仕方を学びます。フランス語で書かれた詩を原文のまま味わい、音読、訳読を通してフランス詩独自の作品空間を自分の身体で体感できるようになりましょう。授業の最後には、グループワークで、次週に行う復習小テストの原案作成も行ってもらいます(詳細は授業で説明しますが、大きな負担にはなりません)。出題者側の視点に立ち、周囲と意見交換をすることで、その日の授業内容が自然と整理(復習)されることでしょう。授業後には、毎回授業に関するミニコメントをmanabaの掲示板に書き込んでいただきます。他の履修生に読まれることを前提に、作品の解釈、感想、疑問点などを書き込んでください。書き込みの頻度は平常点に反映されます。

また、ヴァリエントゲームというオリジナルゲームにも参加していただきます(詳細は参考URLの解説動画でご確認ください)。パワーポイントを使用しますので、パソコンやタブレットの準備をお願いします。

学期末に授業内容に関するレポートを提出していただき、平常点と合わせて成績を評価します。

科目目的

1年生で学んだフランス語の基礎文法を文学作品読解に実際に適用する能力を身に付ける。小ぶりの詩の分析作業を通して文学作品の構造分析の基礎的技術を身に付け、ボリュームのある詩篇、小説などの作品分析にもその技術をいかせるようになる。

到達目標

1. フランス詩の歴史(中世～20世紀)の概要を把握する。
2. 授業で扱った詩作品の音声上の特徴を理解する。
3. 授業で扱った詩作品の文法構造を理解する。
4. 授業で扱った詩作品で使用されている修辞法を理解する。
5. 上記の観点から踏まえて自分で詩作品の解釈を行う。

授業計画と内容

- 第1回: 授業概要説明。定義ゲーム。
- 第2回: 中世 / ジャン・コクトー「踊り子」
- 第3回: ルネサンス / ロベール・デスノス「蟻」「ペリカン」
- 第4回: バロック・古典主義 / ポール・エリュアール「魚」「恋する女」
- 第5回: ロマン主義① / ジャック・プレヴェール「Paris at night」「庭園」
- 第6回: ロマン主義② / フィリップ・スーポー「急げ」
- 第7回: ヴァリエントゲーム①
- 第8回: 高踏派 / ポール・ヴェルレーヌ「秋の歌」
- 第9回: 象徴主義 / ポール・ヴェルレーヌ「白い月」
- 第10回: キュビズム / アルチュール・ランボー「感覚」
- 第11回: シュルレアリスム / アルチュール・ランボー「谷間に眠る者」
- 第12回: 現代詩 / ジュール・ルナール「カワセミ」
- 第13回: ヴァリエントゲーム②
- 第14回: まとめ

(授業回は大体の目安であり、履修者の人数や理解度によって内容を追加・変更することがあります。)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	50%	以下の5項目を採点基準とし評価する。 ①提出期間を含め課題の規定に従っている。 ②構成(問題設定・本論・結論)が適切である。 ③主題(論旨)が明確かつ説得的である。 ④執筆者にしか書けない独創性がある。 ⑤誤字脱字などのない明晰な文章である。
平常点	50%	50%の内訳は、30%が毎回の小テスト・掲示板の書き込み、20%がディスカッション・グループ発表などへの参加態度。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

5回以上欠席された方は、原則として成績評価の対象となりません。やむを得ない個別の事情がある場合は、必ず事前にご相談ください。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

毎回の授業へのコメントを共有するためにmanabaの掲示板機能を利用します。また、小テスト、ヴァリアントゲームを行う際に、タブレット、パソコンなどが必要になります。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業で扱う作品はmanabaを通して配布しますが、主に以下の対訳詩集に掲載されている作品を扱う予定です。教科書に指定はしませんが、良い本なので購入をお勧めします。

☆安藤元雄・入沢康夫・渋沢孝輔〔編〕『フランス名詩選』岩波文庫、1998年。

以下は参考文献です。

【詩集】

- ・アルチュール・ランボー『対訳 ランボー詩集』中地義和編、岩波文庫、2020年。
- ・ジャック・プレヴェール『プレヴェール詩集』小笠原豊樹訳、岩波文庫、2017年。
- ・ジュール・ルナール『博物誌』岸田國士訳、新潮文庫、1954年。
- ・ギヨーム・アポリネール『アポリネール詩集』堀口大學訳、新潮文庫、1954年。
- ・ポール・ヴェルレーヌ『ヴェルレーヌ詩集』堀口大學訳、新潮文庫、1950年。

【詩を読むということ】

- ・渡邊十糸子『今を生きるための現代詩』講談社現代新書、2013年。
- ・阿部公彦『文学を(凝視)する』岩波書店、2012年。
- ・大森晋輔『フランスの詩と歌の愉しみ 近代詩と音楽』東京藝術大学出版会、2012年。
- ・中地義和『ランボー 自画像の詩学』岩波書店、2005年。
- ・窪田般彌『ミラボー橋の下をセーヌが流れ——フランス詩への招待』白水社、ふらんす双書、1975年。
- ・田中淳一『地球とオレンジ——フランス現代詩を読む』白水社、ふらんす双書、1980年。
- ・安藤元雄『新版 フランス語の散歩道』白水社、1996年。

【フランス詩法】

- ・杉山正樹『やさしいフランス詩法』白水社、1981年。

【フランス文学史】

- ・田村毅・塩川徹也編『フランス文学史』東京大学出版会、1995年。

オフィスアワー

その他特記事項

- ・実質15分以上の遅刻は欠席とみなします。電車の遅延があった場合は遅延時間の明記してある遅延証明書を提出してください。
- ・事前に教員に相談があり、教員がやむを得ないと判断した場合に限り、欠席された方が自宅からオンライン受講することを認めます。なお、オンライン受講をされても出欠記録は「欠席」となります。
- ・個別の連絡には「個別指導(コレクション)」を使用し、要件ごとにスレッドを立ててください。クラス全体の「掲示板」に個人情報を書き込まないようご注意ください。
- ・毎回の授業は、webexで授業画面のみ録画をし(教室の様子は撮影しません)可能な範囲でアーカイブ公開を行う予定です。授業内容の復習に役立ててください。

参考URL

この授業は、仏文専攻・語文コース系の教員が担当しています。
語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>
語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>
前之園望の研究室 https://www.youtube.com/@nozomu_maenosono_chuo

ヴァリアントゲームの解説動画もご覧ください。

https://youtu.be/5vk-yp_X6Ls

備考

科目名： フランス詩B

担当教員： 前之園 望

履修年度： 2026 学期： 後期

開講曜日時限： 水2

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-LT2-D306

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:53:5

更新者： AA2035

更新日時： 2026-01-12 11:27:3

授業形式

原則として、すべての授業回について面接授業を行います。

履修条件・関連科目等

フランス語の基礎文法を修得済みであること。
「フランス詩A」を履修していると、授業内容をより深く理解できます。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- ✓ フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

外国語に翻訳するのが一番難しい表現はなんだと思いますか？ 哲学用語？ 時事用語？ いいえ、それは「ダジャレ」です。たとえば「布団がふっとんだ」の「くだらなさ」まで100%ニュアンスを伝える英訳は可能でしょうか？ “The futon was blown up.”なんて訳しても全然おもしろみがありませんね。ある言語内での単語間の音の類似を、そっくりそのまま他の言語に置き換えるのはほぼ不可能です。

詩は特に音の響き合いを利用する傾向の強い言語芸術です。詩作品は、翻訳で読んでももちろん楽しめますが、原文で同じ作品を読むと、いかに翻訳でこぼれ落ちてしまうものが多いかということに気が付きます。これは、翻訳者の技量ではどうしようもない、言語の構造的な問題です。

フランス語の基礎文法を学んだ方は、フランス詩を原文で丸ごと味わうことができます。これは大きな特権です。翻訳は大いに利用して構いません。原文で作品を読み、その翻訳を補う視点から作品を楽しみましょう。

フランス詩Bでは、19世紀・20世紀に活躍した詩人の作品を鑑賞します。フランス詩Aで扱った詩よりもやや長めの詩作品を読み、分析の仕方を学びます。フランス語で書かれた詩を原文のまま味わい、音読、訳読を通してフランス詩独自の作品空間を自分の身体で体感できるようにしましょう。授業の最後には、グループワークで、次週に行う復習小テストの原案作成も行ってもらいます(詳細は授業で説明しますが、大きな負担にはなりません)。出題者側の視点に立ち、周囲と意見交換をすることで、その日の授業内容が自然と整理(復習)されることでしょう。授業後には、毎回授業に関するミニコメントをmanabaの掲示板に書き込んでいただきます。他の履修生に読まれることを前提に、作品の解釈、感想、疑問点などを書き込んでください。書き込みの頻度は平常点に反映されます。

また、ヴァリエントゲームというオリジナルゲームにも参加していただきます(詳細は参考URLの解説動画でご確認ください)。パワーポイントを使用しますので、パソコンやタブレットの準備をお願いします。

学期末に授業内容に関するレポートを提出していただき、平常点と合わせて成績を評価します。

科目目的

1年生で学んだフランス語の基礎文法を文学作品読解に実際に適用する能力を身に付ける。小ぶりの詩の分析作業を通して文学作品の構造分析の基礎的技術を身に付け、ボリュームのある詩篇、小説などの作品分析にもその技術をいかせるようになる。

到達目標

1. 授業で扱った詩作品の音声上の特徴を理解する。
2. 授業で扱った詩作品の文法構造を理解する。
3. 授業で扱った詩作品で使用されている修辞法を理解する。
4. 上記の観点を踏まえて自分で詩作品の解釈を行う。

授業計画と内容

- 第1回: 授業概要説明。定義ゲーム。
- 第2回: ジャック・ブレヴェール「美術学校」
- 第3回: アルチュール・ランボー「わが放浪」
- 第4回: ジェラルド・ド・ネルヴァル「黄金詩篇」
- 第5回: ヴァリエントゲーム①
- 第6回: シャルル・ボードレー「コレスポンダンス」
- 第7回: ギヨーム・アポリネール「白雪」
- 第8回: ギヨーム・アポリネール「ミラボー橋」
- 第9回: ヴァリエントゲーム②
- 第10回: シャルル・ボードレー「旅へのいざない」
- 第11回: ジャック・ブレヴェール「学校を出て」
- 第12回: アンドレ・ブルトン「塩の仙女」
- 第13回: ヴァリエントゲーム③
- 第14回: アンドレ・ブルトン「私は見る、私は想像する」

(授業回は大体の目安であり、履修者の人数や理解度によって内容を追加・変更することがあります。)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	50%	以下の5項目を採点基準とし評価する。 ①提出期間を含め課題の規定に従っている。 ②構成(問題設定・本論・結論)が適切である。 ③主題(論旨)が明確かつ説得的である。 ④執筆者にしか書けない独創性がある。 ⑤誤字脱字などのない明晰な文章である。
平常点	50%	50%の内訳は、30%が毎回の小テスト・掲示板の書き込み、20%がディスカッション・グループ発表などへの参加態度。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

5回以上欠席された方は、原則として成績評価の対象となりません。やむを得ない個別の事情がある場合は、必ず事前にご相談ください。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
- その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

毎回の授業へのコメントを共有するためにmanabaの掲示板機能を利用します。また、小テストやヴァリエントゲームを行う際に、タブレット、パソコンなどが必要になります。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業で扱う作品はmanabaを通して配布します。以下は参考文献です。

【詩集】

- ・アルチュール・ランボー『対訳 ランボー詩集』中地義和編、岩波文庫、2020年。
- ・ジャック・プレヴェール『プレヴェール詩集』小笠原豊樹訳、岩波文庫、2017年。
- ・安藤元雄・入沢康夫・渋沢孝輔〔編〕『フランス名詩選』岩波文庫、1998年。
- ・ジュール・ルナール『博物誌』岸田國士訳、新潮文庫、1954年。
- ・ギヨーム・アポリネール『アポリネール詩集』堀口大學訳、新潮文庫、1954年。
- ・ポール・ヴェルレーヌ『ヴェルレーヌ詩集』堀口大學訳、新潮文庫、1950年。

【詩を読むということ】

- ・渡邊十糸子『今を生きるための現代詩』講談社現代新書、2013年。
- ・阿部公彦『文学を(凝視)する』岩波書店、2012年。
- ・大森晋輔『フランスの詩と歌の愉しみ 近代詩と音楽』東京藝術大学出版会、2012年。
- ・中地義和『ランボー 自画像の詩学』岩波書店、2005年。
- ・窪田般彌『ミラボー橋の下をセーヌが流れ——フランス詩への招待』白水社、ふらんす双書、1975年。
- ・田中淳一『地球とオレンジ——フランス現代詩を読む』白水社、ふらんす双書、1980年。
- ・安藤元雄『新版 フランス語の散歩道』白水社、1996年。

【フランス詩法】

- ・杉山正樹『やさしいフランス詩法』白水社、1981年。

オフィスアワー

その他特記事項

- ・実質15分以上の遅刻は欠席とみなします。電車の遅延があった場合は遅延時間の明記してある遅延証明書を提出してください。
- ・事前に教員に相談があり、教員がやむを得ないと判断した場合に限り、欠席された方が自宅からオンライン受講することを認めます。なお、オンライン受講をされても出欠記録は「欠席」となります。
- ・個別の連絡には「個別指導(コレクション)」を使用し、要件ごとにスレッドを立ててください。クラス全体の「掲示板」に個人情報を書き込まないようご注意ください。
- ・毎回の授業は、webexで授業画面のみ録画をし(教室の様子は撮影しません)可能な範囲でアーカイブ公開を行う予定です。授業内容の復習に役立ててください。

参考URL

この授業は、仏文専攻・語文コース系の教員が担当しています。
語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>
語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>
前之園望の研究室 https://www.youtube.com/@nozomu_maenosono_chuo

ヴァリアントゲームの解説動画もご覧ください。
https://youtu.be/5vk-yp_X6Ls

備考

科目名： フランス文学研究A

担当教員： 小嶋 洋介

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 木2

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-LT2-D307

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:53:5

更新者： AB2707

更新日時： 2026-01-10 13:20:3

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

文学作品を読むとは、魂のコトバを読み取り、対話を交わすことです。対話相手のほとんどは、亡くなった人の魂です。何十年、何百年、時には何千年も以前に亡くなった人々と会話をするのです。そのような体験を通じて、人の形は無くなっても魂は滅びない、今も生きているという思いをするのではないのでしょうか。もちろん、どのような作品が私達の「こころ」を魂の対話へと誘うのか、人によって様々でしょう。またこの時、文学作品は、小説や詩といったジャンルに限ったことではありません。神話、哲学、あるいは科学的テキストにおいても、そのような誘いの力を持つものは少なくありません。授業では、もっぱら「私」の「こころ」に触れてきた作品を紹介し、講義は、歴史的な流れを辿りながら、「魂」の問題の西洋的な展開を把握した上で、フランス文学に読み得るその「コトバ」に対し、私なりに答えてみたいと思います。「フランス」文学以外のテキストにも言及する故、比較文学・文化の要素も併せ持つ授業である点、ご了承ください。とにかく様々なテキストと一緒に読んでみましょう。そして、皆さんも自分なりに、過去から届く魂の声との応答を試みてみてください。前期A講義では、古代からルネサンスにかけての作品を取り上げます。特に前半は、オリエン神話、ギリシア神話、悲劇、哲学というフランス以外の作品を扱います。それらが、いかなる意味で「フランス文学」と関わってくるかは、徐々に明らかとなります。

科目目的

- ・この科目は、カリキュラム上の講義科目として位置づけられていることから、この科目での学習を通じて、学生がフランス文学に対する基礎知識を修得するとともに、言語・文化・社会についての素養と複眼的思考の重要性を理解できるようになります。
- ・この科目は、文学部のディプロマポリシーである「幅広い教養」「複眼的思考」「専門的学識」を修得することを目的としています。

到達目標

フランス文学、ならびにより広い意味での「文学」に関する認識を深めることを目指します。しかしながら、講義で論じる多種・多様な問題を、単なる知識として受容するのではなく、独自に論究し「思索」することに向けての「導き」とすることが、より大きな目標です。

授業計画と内容

- 第1回 始まりの文学＝「神話」(ミュトス)について
- 第2回 『ギルガメッシュ叙事詩』
- 第3回 ギリシア神話：特にプロメテウスとディオニュソスについて
- 第4回 ソポクレス『オイディプス王』
- 第5回 ソポクレス『クロノスのオイディプス』
- 第6回 井筒俊彦による「神秘哲学」とディオニュソス
- 第7回 プラトン『ソクラテスの弁明』『パイドン』
- 第8回 プラトン『饗宴』
- 第9回 聖者伝と『ロランの詩』
- 第10回 『トリスタン・イゾー物語』とケルト
- 第11回 トーマス・マロリー『アーサー王の死』
- 第12回 クレティアン・ド・トロワ『ペルスヴァル』と聖杯伝説
- 第13回 ラブレール『ガルガンチュアとパンタグリユエル』
- 第14回 モンテーニュ『エッセー』

以上に掲げた事項はあくまで予定にすぎず、実際の授業の進展に応じ、様々な修正のあり得る旨ご承知ください。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	実施せず
期末試験	0%	実施せず
レポート	80%	期末レポートを提出してもらいます。単位を取得するうえで、提出が必須事項となります。自分なりの考えを提示しようとする意思があり、同時に自分の考えを他者に明確に伝える文章に優れていると判断できるレポートを、高く評価します。
平常点	20%	適当な時期に、「小レポート」を課題として出します。「期末レポート」執筆・提出の練習や準備となるものです。この小レポートだけで、単位を取得することはできません。また、授業への参加度、受講態度の状況なども、平常点に含めます。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaのアンケートや掲示板などの機能を用いて、適宜、学生の反応を把握しながら授業を進めていく。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト:
講義原稿をmanabaに掲載します。

参考文献:
レヴィ=ストロース『構造・神話・労働—クロード・レヴィ=ストロース日本講演集』みすず書房
『ギルガメッシュ叙事詩』ちくま学芸文庫
ソポクレス『オイディッパス王』コロノスのオイディッパス』ちくま文庫、岩波文庫
井筒俊彦『神秘哲学』岩波文庫他
プラトン『ソクラテスの弁明』『パイドン』『饗宴』岩波文庫他
『ロランの詩』岩波文庫他
『トリスタン・イゼル—物語』岩波文庫他

マロリー『アーサー王の死』ちくま文庫
クレティアン・ド・トロワ『ペルスヴァルまたは聖杯の物語』(『フランス中世文学集2』白水社)
ラブレール『ガルガンチュアとパンタグリユエル』岩波文庫、ちくま文庫
モンテーニュ『エッセー』白水社、岩波文庫他

その他、授業中に適宜指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

この授業は、仏文専攻・語文コース系の教員が担当しています。

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>

語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

科目名： フランス文学研究B

担当教員： 小嶋 洋介

履修年度： 2026 学期： 後期

開講曜日時限： 木2

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-LT2-D308

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:53:5

更新者： AB2707

更新日時： 2026-01-10 13:21:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

文学作品を読むとは、魂のコトバを読み取り、対話を交わすことです。対話相手のほとんどは、亡くなった人の魂です。何十年、何百年、時には何千年も以前に亡くなった人々と会話をするのです。そのような体験を通じて、人の形は無くなっても魂は滅びない、今も生きているという思いをするのではないのでしょうか。もちろん、どのような作品が私達の「こころ」を魂の対話へと誘うのか、人によって様々でしょう。またこの時、文学作品は、小説や詩といったジャンルに限ったことではありません。神話、哲学、あるいは科学的テキストにおいても、そのような誘いの力を持つものは少なくありません。授業では、もっぱら「私」の「こころ」に触れてきた作品を紹介し、講義は、歴史的な流れを辿りながら、「魂」の問題の西洋的な展開を把握した上で、フランス文学に読み得るその「コトバ」に対し、私なりに答えてみたいと思います。「フランス」文学以外のテキストにも言及する故、比較文学・文化の要素も併せ持つ授業である点、ご了承ください。とにかく様々なテキストと一緒に読んでみましょう。そして、皆さんも自分なりに、過去から届く魂の声との応答を試みてみてください。後期B講義では、近世～近代にいたる「フランス文学」のテキストを、より具体的・多角的に取り上げ論究します。

科目目的

- ・この科目は、カリキュラム上の講義科目として位置づけられていることから、この科目での学習を通じて、学生がフランス文学に対する基礎知識を修得するとともに、言語・文化・社会についての素養と複眼的思考の重要性を理解できるようになります。
- ・この科目は、文学部のディプロマポリシーである「幅広い教養」「複眼的思考」「専門的学識」を修得することを目的としています。

到達目標

フランス文学、ならびにより広い意味での「文学」に関する認識を深めることを目指します。しかしながら、講義で論じる多種・多様な問題を、単なる知識として受容するのではなく、独自に論究し「思索」することに向けての「導き」とすることが、より大きな目標です。

授業計画と内容

- 第1回 デカルト『方法序説』
- 第2回 ルソー『孤独な散歩者の夢想』
- 第3回 ミシュレ：ルネサンスとフランス革命
- 第4回 ミシュレ『魔女』と自然
- 第5回 メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』光文社古典新訳文庫他
- 第6回 ヴィリエ・ド・リラダン『未来のイヴ』
- 第7回 ヴィリエ・ド・リラダン『ヴェラ』
- 第8回 ボードレール：「万物照応」の詩想
- 第9回 ランボー：言葉の錬金術
- 第10回 フローベール『ボヴァリー夫人』
- 第11回 バルザック『ルイ・ランベール』
- 第12回 『ゴッホの手紙』：文学と絵画
- 第13回 ロラン・バルトと「日本」
- 第14回 レヴィ＝ストロース『月の裏側』

以上に掲げた事項はあくまで予定にすぎず、実際の授業の進展に応じ、様々な修正のあり得る旨ご承知ください。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	実施せず
期末試験	0%	実施せず
レポート	80%	期末レポートを提出してもらいます。単位を取得するうえで、提出が必須事項となります。自分なりの考えを提示しようとする意思があり、同時に自分の考えを他者に明確に伝える文章に優れていると判断できるレポートを、高く評価します。
平常点	20%	適当な時期に、「小レポート」を課題として出します。「期末レポート」執筆・提出の練習や準備となるものです。この小レポートだけで、単位を取得することはできません。また、授業への参加度、受講態度の状況なども、平常点に含めます。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaのアンケートや掲示板などの機能を用いて、適宜、学生の反応を把握しながら授業を進めていく。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト:
講義原稿をmanabaに掲載します。

参考文献:
デカルト『方法序説』ちくま学芸文庫他
ルソー『孤独な散歩者の夢想』光文社新古典翻訳文庫他
ミシュレ『ジャンヌ・ダルク』中公文庫、『魔女』岩波文庫
メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』光文社古典新訳文庫他
ヴィリエ・ド・リラダン『未来のイヴ』岩波文庫他
ボードレール『ボードレール全詩集』ちくま文庫他
ランボー『対訳 ランボー詩集』岩波文庫他
フローベール『ボヴァリー夫人』新潮文庫他
バルザック『神秘の書』水声社

ファン・ゴッホ『ゴッホの手紙』岩波文庫他
ロラン・バルト『記号の国』みすず書房他
レヴィ＝ストロース『月の裏側』中央公論新社
その他、授業中に適宜指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

この授業は、仏文専攻・語文コース系の教員が担当しています。

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>

語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

科目名: フランス映画A

担当教員: 伊藤 洋司

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 月2

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-FS2-D309

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:5

更新者: AA0416

更新日時: 2025-12-23 15:29:5

授業形式

面接授業を行ないます。

履修条件・関連科目等

後期の「フランス映画B」とともに受講することで、一層大きな効果が得られます。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

フランス映画論
フランス映画の歴史と美学とを学ぶ。時代、ジャンルを問わずあらゆる映画が研究対象となる。フランス映画の特質を理解するために、他の国の映画を取り上げて比較することも多い。

科目目的

この科目は、学生が学位授与の方針で示す「専門的学識及び幅広い教養」を修得することを目的としています。

到達目標

- この科目では、以下を到達目標とします。
- (1) 映画論、特にフランス映画論の基本的知識と専門的教養を身につける。
 - (2) 映画全般、特にフランス映画について自分自身の頭で本格的に思考できるような能力を身につける。

授業計画と内容

- 第1回「歴史学と美学」
 - 第2回「映画史を語るひとつの方法」
 - 第3回「先生、映画文法って何ですか」
 - 第4回「映画美学1: 映像」
 - 第5回「映画美学2: 物語」
 - 第6回「何故、僕らはフランス映画論の講義で黄金期ハリウッドを学ばなければならないのか」
 - 第7回「ルイ・フィヤード論、あるいは活劇の起源」
 - 第8回「初期ジャン・ルノワール論、あるいは1920年代アヴェンギャルド」
 - 第9回「ジャン・ヴィゴ論、あるいはアヴェンギャルドの死」
 - 第10回「ドイツ人のハリウッド、ロシア人のフランス映画」
 - 第11回「切り返しという最もスリリングな虚構について」
 - 第12回「雨に濡れ風に吹かれ、そして男と女は変わっていく」
 - 第13回「長澤まさみと新垣結衣はどちらが映画的か、あるいは純愛を信じていたのは遠い昔」
 - 第14回「小津安二郎の墓、あるいは映像には肯定表現しか存在しない」
- * 第2回～第6回で映画史と映画美学の基本を勉強します(フランス映画史に限定しません)。
* 第7回～第13回で映画史初期から歴史的順序を尊重しつつ映画分析の実践を行ないます。
* 映画の劇場公開やDVD発売、さらには学生の反応に応じて、実際の講義内容は変化します。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

講義で一部分のみを取り上げた映画や、推薦もしくは言及した映画をできるだけ実際に観るようにする。
あるいは、講義内容に関する参考文献を読んで理解を深める。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	90% 映画についての基礎知識を理解した上で、映画の根本に関わる問題を学生独自の観点から説明できるかどうかを評価します。
平常点	10% 講義に勤勉な態度で望んでいるかどうかを基準とします。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

講義内容に関する学生の質問を、manabaの個別指導(コレクション)でいつでも受けつけ、それに回答します。

講義に余裕があれば、学生全体に問いを投げかけ、回答してもらいながら、一緒に考えるという時間を設けたいと考えています。

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

- ✓ タブレット端末
- その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

長年に渡って、雑誌にて国内外の様々な映画監督へのインタビューを行っており、また時には、映画製作において、脚本やカット割りに関して具体的な助言を行なうこともあります。

実務経験に関連する授業内容

講義で行なう映画の分析において、実務経験を活かす。

テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。必要があればプリントを配布する。

参考文献

伊藤洋司『映画時評集成2004-2016』、読書人、2017年。

Yoji ITO, Apollinaire et la lettre d'amour, Editions Connaissances et Savoirs, Paris.

『週刊読書人』で「映画時評」を連載中です。また、『ユリイカ』『中央評論』等の雑誌や映画のパンフレット等に映画批評を発表し、『週刊読書人』には蓮實重彦との対談等も掲載しているので、もし興味があれば参照してください。

オフィスアワー

その他特記事項

映画が好きな人が履修してください。

講義で見せる映画の場面には性的あるいは暴力的な描写が含まれることがあります。多くの学生は何も感じないかもしれませんが、感受性には個人差があります。こうした描写に敏感な学生は留意してください。

講義内容に関する質問を、manabaの個別指導(コレクション)でいつでも受けつけます。

参考URL

科目名： フランス映画B**担当教員： 伊藤 洋司**

履修年度： 2026 学期： 後期

開講曜日時限： 月2

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-FS2-D310

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:53:5

更新者： AA0416

更新日時： 2025-12-23 23:02:3

授業形式

面接授業を行ないます。

履修条件・関連科目等

後期の「フランス映画A」とともに受講することで、一層大きな効果が得られます。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

フランス映画論
フランス映画の歴史と美学とを学ぶ。時代、ジャンルを問わずあらゆる映画が研究対象となる。フランス映画の特質を理解するために、他の国の映画を取り上げて比較することも多い。

科目目的

この科目は、学生が学位授与の方針で示す「専門的学識及び幅広い教養」を修得することを目的としています。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とします。

- (1) 映画論、特にフランス映画論の基本的知識と専門的教養を身につける。
- (2) 映画全般、特にフランス映画について自分自身の頭で本格的に思考できるような能力を身につける。

授業計画と内容

- 第1回「アメリカ映画を知らずにフランス映画を語ることの愚かしさ」
 - 第2回「ゴダールのつなぎ間違いは映画史に何をもたらしたのか」
 - 第3回「ロベール・ブレッソン論、あるいは空間の表象」
 - 第4回「1960年代はマニエリスムの夢を見るか」
 - 第5回「あらゆる映画は虚構である、あるいは虚構世界の充足理由律」
 - 第6回「リアリズムの挫折と形式主義の限界」
 - 第7回「真面目な少女のための恋愛映画論：純情篇／エロティシズム篇」
 - 第8回「触れることを禁じられ、ただ見ることしかできない」
 - 第9回「窓というスクリーン、あるいは象徴秩序と幻想」
 - 第10回「言葉からもイメージからもすり抜けるもの、あるいはリアルという虚無」
 - 第11回「ただ単位が欲しいだけ、あるいは私の欲望は他者の欲望である」
 - 第12回「善と美という価値の幻想、あるいは剰余享樂」
 - 第13回「量子力学の時代にスピノザやニーチェのような愛は可能なのか」
 - 第14回「大きな物語と細部へのフェティシズム、あるいは宇宙の本質的無意味」
- * 映画の劇場公開やDVD発売、さらには学生の反応に応じて、実際の講義内容は変化します。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

講義で一部分のみを取り上げた映画や、推薦もしくは言及した映画をできるだけ実際に観るようにする。
あるいは、講義内容に関係する参考文献を読んで理解を深める。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・ 毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・ 毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%
レポート	90% 映画についての基礎知識を理解した上で、映画の根本に関わる問題を学生独自の観点から説明できるかどうかを評価します。
平常点	10% 講義に勤勉な態度で望んでいるかどうかを基準とします。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

講義内容に関する学生の質問を、manabaの個別指導(コレクション)でいつでも受けつけ、それに回答します。
講義に余裕があれば、学生全体に問いを投げかけ、回答してもらいながら、一緒に考えるという時間を設けたいと考えています。

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

長年に渡って、雑誌にて国内外の様々な映画監督へのインタビューを行っており、また時には、映画製作において、脚本やカット割りに関して具体的な助言を行なうこともあります。

実務経験に関連する授業内容

講義で行なう映画の分析において、実務経験を活かす。

テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。必要があればプリントを配布する。

参考文献

伊藤洋司『映画時評集成2004-2016』、読書人、2017年。

Yoji ITO, Apollinaire et la lettre d'amour, Editions Connaissances et Savoirs, Paris.

『週刊読書人』で「映画時評」を連載中です。また、『ユリイカ』『中央評論』等の雑誌や映画のパフレット等に映画批評を発表し、『週刊読書人』には蓮實重彦との対談等も掲載しているので、もし興味があれば参照してください。

オフィスアワー

その他特記事項

映画が好きな人が履修してください。

講義で見せる映画の場面には性的あるいは暴力的な描写が含まれることがあります。多くの学生は何も感じないかもしれませんが、感受性には個人差があります。こうした描写に敏感な学生は留意してください。

講義内容に関する質問を、manabaの個別指導(コレクション)でいつでも受けつけます。

参考URL

科目名： フランス文化研究A

担当教員： 中嶋 美貴

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 木3

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-FS2-D311

登録者： admin

登録日時： 2025-10-22 06:51:5

更新者： XEC613

更新日時： 2026-01-14 14:01:3

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、フランスの食の歴史を学びながら、フランス語の習得を目指します。具体的には、フランス語で書かれた食についてのテキストを読んでいきます。

フランスのガストロミー(美食学とも訳されます)はユネスコの無形文化遺産にも登録されています。フランスの食文化とその歴史に触れることで、調理法など料理そのものの特性について学ぶことはもちろん、社会文化論的な視点を養うことができます。高級で繊細なイメージをもつフランス料理ですが、その美食神話が広まり、それを武器に国家戦略が立てられるのは17世紀になってからです。フランス料理がどのように憧れの対象として語られるようになっていくか、その経緯を確認していきましょう。

この授業では、フランスの食にまつわる慣習やその歴史的背景に注目したいと思います。具体的には、主要な歴史の出来事を参照しつつ、各時代のフランスの食についてのテキストを読んでいきます。「食」とおして、フランスの歴史や社会についての知識を深めていきましょう。フランス語で書かれたテキストの訳読がありますので、フランス語をすでに学習したことがある学生さん向けの授業です。

毎回一人ずつフランスの歴史の主要な出来事について日本語で発表してもらい、その後、フランス語で書かれたフランスの食の歴史についてのテキストを読んでいきます。

春学期はフランス料理について学んでいきたいと思います。

科目目的

フランスの食の歴史を学び、フランスの文化と社会への理解を深めましょう。

到達目標

フランス語で書かれた文章を自力で読めるようになります。歴史的背景を踏まえ、フランスの食文化の知識を深めましょう。

授業計画と内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 中世① 食風景
- 第3回 中世② 食卓と調理場
- 第4回 中世③ 調理の工夫
- 第5回 食のルネサンス
- 第6回 17世紀① フランス料理の誕生
- 第7回 17世紀② 洗練されるサービス
- 第8回 18世紀 宮廷の饗宴
- 第9回 大革命期① レストランの登場—革命とカフェ
- 第10回 大革命期② 食通文学—ペンとフォーク
- 第11回 19世紀① フランス美食のバル・エポック
- 第12回 19世紀② 料理科学の発展
- 第13回 20世紀 フランス地域主義と地方料理
- 第14回 総括

※登録された受講生の人数や理解度、進捗状況に応じて、内容に変更が生じる場合があります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	0%
平常点	50% 授業への参加態度や宿題で評価します。
その他	50% 発表の内容で評価します。

成績評価の方法・基準(備考)

4回まで欠席を認めます。5回欠席すると成績評価対象外になります。
コロナやインフルエンザ感染は公欠扱いとしますので、感染したことを証明する書類等を提出してください。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

毎回manaba上で資料を共有します。

【参考文献】

アントニー・ローリー著、池上俊一訳監修『美食の歴史』創元社、1996年

ジャン＝ピエール・ブーラン、エドモン・ネランク著、山内秀文訳『プロのためのフランス料理の歴史』学習研究社、2005年

マグロンヌ・トゥーサン＝サマ著、太田佐絵子訳『フランス料理の歴史』原書房、2011年

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

この授業は、仏文専攻・語文コース系の教員が担当しています。

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>

語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

科目名： フランス文化研究B

担当教員： 中嶋 美貴

履修年度： 2026 学期： 後期

開講曜日時限： 木3

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-FS2-D312

登録者： admin

登録日時： 2025-10-22 06:51:5

更新者： XEC613

更新日時： 2026-01-14 14:00:5

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、フランスの食の歴史を学びながら、フランス語の習得を目指します。具体的には、フランス語で書かれた食についてのテキストを読んでいきます。

フランスは、長い歴史の中でお菓子の技術とその文化を磨いてきました。マカロン、アマンディーヌ、マドレーヌ、カヌレ、ガトーショコラ…これらの名前はすべてフランス語ですが、すでに日本でも一度は聞いたことのある定番のお菓子になってきました。最近、ガレット・デ・ロワもあちこちのお菓子屋さんで見かけるようになってきましたね。フランスにとって、フランス菓子をあこがれの対象として「語ってもらう」ことは、世界の中で文化的地位を得るための大切な要素になっています。

この授業では、フランスのお菓子にまつわる慣習やその歴史的背景に注目したいと思います。具体的には、主要な歴史の出来事を参照しつつ、各時代のフランスのお菓子についてのテキストを読んでいきます。「フランスのお菓子」をとおして、フランスの歴史や社会についての知識を深めていきましょう。フランス語で書かれたテキストの訳読がありますので、フランス語をすでに学習したことがある学生さん向けの授業です。

毎回一人ずつフランスの歴史の主要な出来事について日本語で発表してもらい、その後、フランス語で書かれたフランスの食の歴史についてのテキストを読んでいきます。

秋学期はフランスのお菓子について学んでいきたいと思います。

科目目的

フランスの食の歴史を学び、フランスの文化と社会への理解を深めましょう。

到達目標

フランス語で書かれた文章を自力で読めるようになります。歴史的背景を踏まえ、フランスの食文化の知識を深めましょう。

授業計画と内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 中世① キリスト教信仰とお菓子①
- 第3回 中世② キリスト教信仰とお菓子②
- 第4回 中世③ キリスト教信仰とお菓子③
- 第5回 16世紀 大航海とお菓子
- 第6回 17世紀① 絶対王政とお菓子①
- 第7回 17世紀② 絶対王政とお菓子②
- 第8回 18世紀 絶対王政とお菓子③
- 第9回 大革命期① 革命と菓子職人①
- 第10回 大革命期② 革命と菓子職人②
- 第11回 19世紀① ブルジョワの快樂①
- 第12回 19世紀② ブルジョワの快樂②
- 第13回 20世紀 現代フランスのお菓子
- 第14回 総括

※登録された受講生の人数や理解度、進捗状況に応じて、内容に変更が生じる場合があります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	0%
平常点	50% 授業への参加態度や宿題で評価します。
その他	50% 発表の内容で評価します。

成績評価の方法・基準(備考)

4回まで欠席を認めます。5回欠席すると成績評価対象外になります。
コロナやインフルエンザ感染は公欠扱いにしますので、感染したことを証明する書類等を提出してください。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】
毎回manabaで共有します。

【参考文献】
マグロンヌ・トゥーサン＝サマ『とても美しく美味しいお菓子とフリアンディーズの歴史』ル・ペレグリナトゥール出版、トゥールーズ、2018年
池上俊一『お菓子でたどるフランス史』岩波ジュニア新書、2013年

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

この授業は、仏文専攻・語文コース系の教員が担当しています。

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>

語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

科目名：美術史各論(1)A

担当教員：藤原 えりみ

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：水3

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-HR2-D451

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:5

更新者：AD2359

更新日時：2026-01-14 03:02:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

人は人に似た姿をどのように造形化してきたのか
 ---- 古代ギリシャ彫刻から医療サイボーグ技術まで----

西洋美術の歴史において重要な意味と役割を担ってきた身体表現は、20世紀に入って造形表現の表舞台から消え去ったように思われる時期がある。けれども、身体表象が消滅してしまったわけではない。写真、映画、文学、アニメーション、漫画、インタラクティブ・アートなどにおいて、身体表象はさまざまな展開を示している。古代ギリシャ彫刻に始まる裸体表現の歴史を踏まえつつ、19世紀後半の「トルソ」の発見を節目として、現代の医療サイボーグ技術にいたるまで、近代以降の身体表象がどのように変化してきたのか、さらにテクノロジーによって身体の可能性がどのように開かれていくのか、領域横断的に検討してみたい。

科目目的

近代がもたらした身体観、ひいては世界観の変容の概念を通して、現代社会における身体の問題を捉え、検討する批判的視点の養成を目的とする。

到達目標

西洋美術を理解する上で欠かせない「ヌード表現」の歴史を理解するとともに、時代や地域によって「理想とされる身体イメージ」が異なることを学び、現代社会における身体のあり方を考察するための知識および思考方法を身につけることを目的とする。

授業計画と内容

- 第1回：オリエンテーション 見える身体／見えない身体
- 第2回：美術における身体イメージの解体1 古代ギリシャからキリスト教社会へ
- 第3回：美術における身体イメージの解体2 古代彫刻を手本とする＜理想の身体＞の復活
- 第4回：美術における身体イメージの解体3 ＜理想の身体＞VS＜ありのままの身体＞
- 第5回：美術における身体イメージの解体4 19世紀後半における「トルソ」の発見と抽象芸術の展開
- 第6回：美術における身体イメージの解体5 ナチズムと身体イメージ
- 第7回：身体の外に抗して 抑圧された身体と精神の解放を目指して
- 第8回：テクノロジーと身体1 1980年代以降の展開
- 第9回：テクノロジーと身体2 人造人間という夢
- 第10回：テクノロジーと身体3 人間を脅かすロボットから人間と共生するロボットへ
- 第11回：テクノロジーと身体4 アンドロイド～人間と人間でないものの境界～
- 第12回：テクノロジーと身体5 身体未来：医療サイボーグ技術
- 第13回：テクノロジーと身体6 身体欠損を超えて
- 第14回：総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業に関する資料として配布するテキストや関連書籍を事前に読んでおくこと。
 また、本来であれば授業中に鑑賞するべきではあるものの、限られた授業時間中には見せることのできない映画やアニメーションなどを積極的に鑑賞すること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	70% 提起された課題を考察しレポートとして提出(具体的な課題テーマは追って提示する)
平常点	30% 授業の参加・貢献度、コメントカード
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

単位取得にはどんな理由であれ3分の2以上の出席が必要です。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考文献は授業の中で紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

西洋美術史の基礎知識があることが望ましい。

参考URL

備考

科目名：美術史各論(1)B**担当教員：藤原 えりみ**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：水3

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-HR2-D452

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:5

更新者：AD2359

更新日時：2026-01-14 03:02:1

授業形式

すべての授業回について、対面授業を行う。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

芸術理論と芸術的実践、芸術の機能および芸術と社会について

知識とは先人の探求による知の蓄積であり、感性とは外的対象を知覚しならぬかの判断を下す人間の能力である。一見すると関係性をもたない2つの領域のように思えるだろうが、実は芸術においては緊密な結びつきを持っている。知識は感性をより豊かにし、感性は知識をより深めて断片化する情報に潜む連帯を発掘していくからである。

この授業では、芸術理論(知識)と芸術的実践(感性)という観点から、シンシア・フリーランド著『でも、これがアートなの？ ---芸術理論入門』を手がかりに、古代ギリシャ哲学から20世紀後半以降の時代展開(例えば植民地以後の時代やジェンダー論など)までも視野に収め、創造行為と作品鑑賞、作品と社会との関係を考察してみたい。

科目目的

西洋美術史を学ぶ学生が、芸術家や芸術作品について考察をするうえで、どのようなテーマがあり、どのような切り口があるのかについて知ることによって専門的な知識を深める。

到達目標

近現代芸術をとりまく諸問題について、社会との関わりをなかで考察し、現代アートの動向に関心を向けることができる。

授業計画と内容

- 第1回: 芸術の起源について: 儀式と表現行為(生命/死/再生と芸術表象)
- 第2回: 芸術の機能1: 古代ギリシャにおけるイデア論・カタルシス理論から中世の「神の国」の美学へ
- 第3回: 芸術の機能2: 神の国の美からこの世の美へ
- 第4回: 芸術の機能2-2:
- 第5回: 芸術の機能3-1: 国家イデオロギーと芸術表象
- 第6回: 芸術の機能3-2: 国家イデオロギーと芸術表象
- 第7回: 芸術の機能4: 既成概念の打破と美的価値の創出
- 第8回: 芸術の普遍性について1: 美的価値は普遍的であり得るか
- 第9回: 芸術の普遍性について2: 伝統とは何か。オーセンティック(真正さ)とは?
- 第10回: 芸術と社会1-1: ジェンダーという問い1
- 第11回: 芸術と社会1-2: ジェンダーという問い2
- 第12回: 芸術と社会2-1: 拡張する表現1
- 第13回: 芸術と社会2-2: 拡張する表現2
- 第14回: 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

配布する資料や参考テキストを自薦に読んでおくこと。
授業中に紹介する展覧会やトークイベント等に積極的に足を運び、作品鑑賞体験を深めること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	80% 学年末試験
レポート	0%
平常点	20% 授業の参加・貢献度、コメントカード
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

単位取得にはどんな理由であれ3分の2以上の出席が必要です。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考文献は授業の中で紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

西洋美術史の基礎知識があることが望ましい。

参考URL

科目名：美術史各論(3)A**担当教員：吉田 紀子**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：月3

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-HR2-D455

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:5

更新者：AB5705

更新日時：2026-01-08 07:26:5

授業形式

対面授業による講義
(学期中に1回、履修学生による展覧会見学を予定)

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

【世紀転換期芸術の連環——フランスのアール・ヌーヴォーⅡ】

19世紀末から20世紀初頭にかけてのヨーロッパ世紀転換期の芸術に関して、今日の西洋美術史学では、一握りの巨匠や前衛運動の展開としてこれを語る見方は相対化されています。諸芸術の動向を重ね合わせると共に、美術館や博覧会といった文化装置、影響力を増すメディアとしての批評、国家の政策動因等を勘案することで、我々は世紀転換期芸術の実相により緊密に迫ることができるでしょう。本講義ではフランス世紀転換期の芸術を取り上げ、装飾(デザイン)、絵画、批評、政策が織り成す「連環」、すなわち相互作用に注意を向けて考察します。2025～2026年度の2年間にわたり、フランスのアール・ヌーヴォーを中心に考察を進めます。前年度はまずその全体像を、本年度は各論としてアール・ヌーヴォーのポスターについて詳述してまいります。前年度に受講していない方も、本年度の冒頭で振り返り学習を行いますので、授業理解や履修に問題はありません。

科目目的

この科目はカリキュラム上、専門的な論題を通じてより高度な知識を得るための講義と位置付けられています。本講義は従って、履修学生が19～20世紀転換期のフランスのアール・ヌーヴォーに関して、広範かつ詳細な知識を習得することを目的とします。

到達目標

1. 19世紀末から20世紀初頭にかけてのフランス世紀転換期の芸術のうち、特にアール・ヌーヴォーについて、一つ一つの事象を知識として習得することができる。
2. 芸術家、作品、周辺環境が複合的に紡ぎ出す美術史の広がりに対して、関心と問題意識を高めることができる。

授業計画と内容

1. イントロダクション
2. 前提①アール・ヌーヴォーと装飾芸術
3. 前提②アール・ヌーヴォーとポスターの発展
4. トゥールーズ＝ロートレック(1864～1901年)①初期の絵画作品
5. トゥールーズ＝ロートレック(1864～1901年)②ポスターとグラフィック作品
6. トゥールーズ＝ロートレック(1864～1901年)③ジャンル、クラス、ジェンダーの領域横断
7. シェレ(1836～1932年)とスーラ(1859～1891年)①ポスター・デザイナーの活躍
8. シェレ(1836～1932年)とスーラ(1859～1891年)②19世紀末のアフィショマニ(ポスター・マニア)現象
9. シェレ(1836～1932年)とスーラ(1859～1891年)③《サーカス》(油彩画、1890～1891年)
10. 展覧会見学とレポート作成
11. ミュンヤ(1860～1939年)①先行研究と今日的視点
12. ミュンヤ(1860～1939年)②後発の外国人ポスター・デザイナー
13. ミュンヤ(1860～1939年)③「民衆のための芸術」
14. 総括および理解度の確認

*諸事情により、各回の内容や順番に若干変更が生じる場合があります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70% 学期末試験
レポート	15% 展覧会見学レポート
平常点	15% 出席状況
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

出席状況、レポートの充実度、学期末試験の結果等を総合して評価判断します。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

○テキスト(教科書)について
教科書は使用しません。なお、フランス美術史とは別にデザイン史全般について事前に予習・復習したい学生には、次の本の関連箇所を一読しておくことをおすすめします。
阿部公正(監)『増補新装 カラー版世界デザイン史』(美術出版社、2012年)
暮沢剛己 他『カラー版図説 デザインの歴史』(学芸出版社、2022年)

○参考文献について
2025～2026年度講義内容全体にかかわる参考文献は次の通りです。このほか個別テーマ研究の参考文献について、授業時に詳細な文献リストを配布する予定です。
デボラ・シルヴァーマン『アール・ヌーヴォー: フランス世紀末と「装飾芸術」の思想』、天野知香・松岡新一郎訳(青土社、1999年)
天野知香『装飾/芸術: 19-20世紀のフランスにおける「芸術」の位相』(ブリュッケ、2001年)
セゴレーヌ・ルメン『スーラとジェレ: 画家、サーカス、ポスター』、吉田紀子訳・解説(三元社、2013年)
『パリ♡グラフィック: ロートレックとアートになった版画・ポスター展』図録、三菱一号館美術館(筑摩書房、2017年)
吉田紀子『ポスター芸術論: 19～20世紀フランスの広告、絵画、ポピュラー・イメージ』(三元社、2022年)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：美術史各論(3)B**担当教員：天野 知香**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：木5

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-HR2-D456

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:5

更新者：AD2004

更新日時：2025-12-12 23:09:2

授業形式

全ての授業回について原則対面授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

19世紀から20世紀にかけてのフランスを中心に、芸術と装飾をめぐる関係とその諸問題に関して美術史の視点から学びます。産業芸術運動の展開と万国博覧会、西欧の植民地主義を背景とした「プリミティヴィズム」と装飾、産業芸術から装飾芸術運動への展開、世紀末の装飾芸術振興運動とモダン・アートの展開、20世紀におけるモダニズムの展開と装飾/デザイン、両大戦間における「アール・デコ」、といった論点を中心に取り上げます。

科目目的

自ら学ぶことを目的とします。主体的に問題意識を持って、時代の動向と芸術文化の関わりを理解することを目指します。

到達目標

1. 19世紀から20世紀にかけての産業/装飾芸術をめぐる運動や動向を理解し、同時代の芸術との関係を理解する。
2. 歴史的な展開をたどることで「芸術」や「装飾」の概念の位相を理解する。
3. 自ら主体的に考えて批判的に歴史や文化をとらえる視点を養う。

授業計画と内容

1. イントロダクション:モダン・アートと産業/装飾芸術
2. 19世紀における産業芸術運動の展開
3. 産業芸術運動と「プリミティヴィズム」
4. 産業芸術から装飾芸術へ
5. 世紀末における装飾芸術振興運動
6. ピュヴィス・ド・シャヴァンヌと壁画の美学
7. ナビ派と装飾芸術
8. 「アール・ヌーヴォー」の展開
9. 世紀末芸術の終焉と1910年代の装飾芸術の展開
10. モダニズムとデザイン/装飾
11. 1925年の博覧会と「アール・デコ」
12. 「アール・デコ」の諸相
13. バウハウス
14. 総括:まとめ

*受講生の理解度を重視して進めます。そのため、各回の内容は変更することがあります。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

積極的に学外の美術館や展覧会で授業に関連する時代の作品や資料に触れること。
関連する文献に積極的に目を通すこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	50% レポート
平常点	50% 出席・授業参加度
その他	0% プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(備考)

個人課題として、学期末のレポートがありますが、毎回の出席して授業を理解することを求めます。能動的に授業に参加するようにしましょう。

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

授業時間内および授業後に質問に答えます。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストはありません。
参考文献は講義中、適宜紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 美術史各論(4)

担当教員: 高橋 健一

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 月4

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-HR2-D457

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:5

更新者: XEC601

更新日時: 2026-01-01 23:37:3

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

【イタリア・バロック美術の諸相】

授業ではおもにバロック期のイタリア美術を論じます。17世紀イタリアの美術は、「歴史」と「自然」のあいだ、聖俗の権威と近代的な自由のあいだで、複雑な様相を呈しています。個々の作品の観察と、同時代の批評的言説の読解をととして、時代の特質を明らかにしていきます。

科目目的

イタリア・バロック美術とその歴史的意義について最新の知見を示すことを目的とします。

到達目標

イタリア・バロック美術とその歴史的意義について深い理解を得ることを目的とします。

授業計画と内容

- 第1回: G・P・ベッローリと17世紀イタリア美術
- 第2回: ルネサンスの遺産(1): ラファエッロ
- 第3回: ルネサンスの遺産(2): コレージョ
- 第4回: ルネサンスの遺産(3): ヴェネツィア派
- 第5回: マニエリスムとトレント公会議以後の美術
- 第6回: カラッチ一族
- 第7回: カラヴァッジョ
- 第8回: ベルニーニ
- 第9回: ボッロミーニとバロックの建築
- 第10回: ルーベンスとバロック絵画のイリュージョニズム
- 第11回: ブッサンと「古典主義」
- 第12回: バロックの諸ジャンル
- 第13回: バロックの終焉
- 第14回: 総括・まとめ・到達度確認

*なお、授業の進捗状況に応じて内容を変更する可能性があります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験 100% 論述式の試験をおこないます。個々の作品や美術家、歴史的事象について授業の内容を踏まえて合理的な説明ができるか、を評価基準とします。

レポート 0%

平常点 0%

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

美術館見学を取り入れる可能性があります。

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

なし。資料を配布します。

参考文献は授業内で指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

